

令和4年度 自己評価書（設置者・園長編）

しらゆりこども園

1 「教育内容」についての検証結果及び改善策

教育内容の資質の向上や改善の為の取り組みが十分でないところが見られる。今後、各学年の主任に教育内容の充実を目指して研修し、さらに他の教職員と共に話し合いの場を多く持ち、共通理解をした上で教育内容にばらつきがないように努める。

2 「地域の幼児教育センターとしての役割」についての検証結果及び改善策

以前より子育て支援のための取り組みは力を入れてきたつもりであるが、努力の割に成果があまり出ていなかった。令和4年度は、地域及び保護者の要望を取り入れた「預かり保育」、未就園児を対象とした「0.1.2 クラブ」や「なかよしちびっこクラブ」は充実してきている。また、市内の少子化に伴い地域の環境が大きく変化する中で、子育て支援事業が入園につながるものが伺えるため、事業のさらなる充実を考えていきたい。

3 「安全管理」

外部からの不審者への対策として、監視カメラ、門扉の改修を実施してきたがまだ不十分でありハードおよびソフトの両面から適切な体制をとることが必要である。特に女性の教職員が多く、不審者への対応に不安があるため、年に一回特別訓練を実施している。また以前から設置してある防犯カメラの映像を記録できるシステムに切り替えた。おれんじ園舎から東側への避難経路を整備し、乳児がスムーズに避難できるようになった。

4 「人事管理」についての検証結果及び改善策

設置者の思惑と現場教員との意識のずれを少し感じており、特にこれまで自己評価については必要性や関心が低く、現場教員はあまりこのことに関して触れられることが苦手だった。今後は自己評価を取り入れて両者の自覚を促し、資質の高い教員の育成に努めたい。

5 「財務管理」についての検証結果及び改善策

財務管理については自ら積極的に公表はしていなかったが、こども園になり10年経過。保育料無償化もあって、入園を希望する子どもたちも多いが、今後は教育的経費等について積極的に説明・公表し、実費等の負担などご理解・ご協力を求めている。

「外部アンケート」からの検証結果及び改善策

個人によってこども園や教職員の評価が異なっていることがわかった。概ね設置者が予想していたより好結果であった。外部評価が即入園希望者数につながり、通信機器の発達により、以前に比べその情報伝達の速さと広がりには十分留意する必要がある。さらなるICT化を進め、園の正確な情報（行事の取り組みや子どもたちの様子等）を発信し、保護者が必要に応じて簡単に情報が得られるようなシステムを導入していきたい。